

里芋の試し掘り

7～8月に五泉市内では葉っぱが大きくなった里芋畑がたくさん見れます。お盆前をピークに、養分が茎の地下部分に送られ、私たちが食べる「里芋」が育っていくようです。成長状況を確認するために「試し掘り」を行います。



園芸連の浅井久美雄会長が説明してくださいました！



重さも量るよ～



サイズ測定中！

五泉市の里芋が美味しいと聞いて、早く秋になって里芋を食べたいなと思っていたら、お盆前に「園芸連（えんげいれん）」にお邪魔した時、里芋の試し掘りを見れました！ラッキー！

各農家が採った一株の里芋の土を洗い落とすと、茎の数を数え、葉っぱの幅を計測し、そして小さく実り始めた「子いも」や「孫いも」を切って重量を量ります。



出荷される孫いもが一番おいしいといいますが、子いもは孫いもよりすこし硬いらしい。

えんげいれん 「園芸連」とは？

「五泉園芸組織連絡協議会」の略称で、五泉市から出荷する野菜、切花や球根などの出荷形態をまとめる組織です。農家と農協の間に立ち、1982年（昭和57年）に設立され、集配センターから作物が全国の卸売市場に運ばれます。農家が会員になり、みんなで連携を取れる仕組みになります。五泉市名産の里芋「帛乙女（きぬおとめ）」も園芸連によりブランド化。規格を満たした里芋だけが「帛乙女」として出荷できます。

こうやって成長状況も確認して、里芋たちはこれから美味しくなっていくのですね！秋の里芋がもっと楽しくなりました。皆さんのおすすめの里芋の食べ方がありますか？良かったら教えてください！

発行 2023年8月28日
作成 五泉市地域おこし協力隊 邱子菁